後世に伝える
―三豊市の文化財― 後編

文化財は、先人たちが文化的活動の中で生み出し、そして長い歴史の中で、今日まで大切に守り伝えられてきたものです。その大切なものを後世に残し伝えていくために、活動している人たちがいます。

今月号は、先月号に引き続き『**県指定無形民俗文化財を守る人たち**』を紹介します。

讃岐源之丞保存会

▲毎週金曜日に大見公民館で練習しています

始まりは明治時代

太夫（語り）と三味線の音色に合わせて人形を使い、義理人情物語の喜怒哀楽を巧みに表現する人形浄瑠璃。その人形浄瑠璃を約100年に渡って上演し続けている讃岐源之丞。

讃岐源之丞は、明治30年に、初代三好三昇こと三好富太郎氏（大見村）が仁尾から人形を購入して大見座を設けたのが始まりです。

しかし戦後、大衆文化の多様化に伴って讃岐源之丞も衰退し、一時は存続も危ぶまれる時期もありましたが、昭和50年からは一座を守るため後継者の育成に力を注ぎました。その結果、数多くの公演が行われるほど力を蓄えてきました。また、国立文楽劇場から指導者を招いて技術の向上にも努めています。

▲人形の頭は当時のものを今も大切に使っています

少しでもプロの迫力に近づけるよう日々練習

インタビュー
讃岐源之丞7代目座長
三好良夫さん

▼20年前の座員は8人

私は20年前の41歳のときに始めました。近所の人が座長をしていたので、その人に誘われて入りました。小さいときに、冬の農閑期になると近所で三味線の音が聞こえたり、語りの練習を見たりしていたので、懐かしい気持ちで始めました。

座員は、今でこそ20人いますが、当時は8人しかいませんでしたし、高齢者がほとんどでした。私が一番の若手でした（笑）

▼浄瑠璃の指導

当時は、先輩が教えてくれていました。ただ、マニュアルなどがあるわけでもないし、教える方もうろ覚えの中で指導していましたから、その時々で人形の動きや仕草が違っていました。

そんな中、当時の教育委員会の人のお世話もあり、文楽（大阪）の浄瑠璃の先生の指導をいただけるようになり、人形使いは年4回、太夫（語り）と三味線は年7回指導にきていただいています。少しでもプロの迫力、きめ細やかな動きに近づけるよう日々練習しています。

▲太夫は場面にあわせて声色を使い分けます

▼浄瑠璃を見るときのポイント

浄瑠璃はひとつの物語になっていて、義理人情を題材とするものがほとんどです。情をこめて語る場面や怒る場面、泣く場面と必ず節目があり、喜怒哀楽を表現した場面が多くあります。最初は、わかりにくくても、人形の仕草を見ていると何となく内容が分かってきます。そして、ほとんどの物語がハッピーエンドです。悪人が出てきて主人公を困らせたりしても、必ずヒーローが現れて、一件落着します。見ていて気持ちのいい物語になっています。

▲讃岐源之丞保存会は、11月の大坊市と3月の弥谷市で定期公演を行っています

讃岐源之丞を見るには

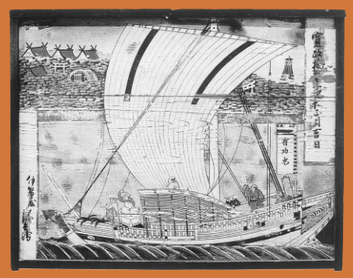
下高瀬地区文化祭
日時　11月1日（日）12時30分頃
場所　三野町体育センター

大見地区文化祭
日時　11月8日（日）午前11時頃
場所　大見小学校

大坊市
日時　11月23日（月・祝）午後1時頃
場所　インパルみの

三豊市文化協会文化祭芸能発表会
日時　11月29日（日）午前11時頃
場所　マリンウェーブ

三豊市の文化財一覧
（先月号より続き）



民俗文化財【有形民俗文化財】

県指定有形民俗文化財
83 讃岐源之丞人形頭および衣裳（三野町）
84 宇賀神社古式醸造用具…（豊中町）
85 粟島伊勢神宮奉納舟絵馬（詫間町）

市指定有形民俗文化財
86 こんぴら道標……（山本町）
87 石造六地蔵像……（山本町）
88 船越八幡神社奉納絵馬…（詫間町）

民俗文化財【無形民俗文化財】

県指定無形民俗文化財
89 人形浄瑠璃用具……（仁尾町）
90 鯛しばり網漁絵馬……（仁尾町）
91 冬網ぼら漁絵馬……（仁尾町）

市指定無形民俗文化財
92 家浦二頭獅子舞……（仁尾町）
93 吉津夫婦獅子舞……（三野町）
94 彌与笛踊・八千歳踊…（財田町）
95 生里・大浜・粟島ももて祭（詫間町）
96 賀茂神社長床神事……（仁尾町）
97 讃岐源之丞……（三野町）
98 亥の子行事……（詫間町）
99 小笠原流神田夫婦獅子舞（詫間町）
100 菅生神社奴行列……（山本町）
101 さいさい踊……（財田町）
102 七宝古流本村夫婦獅子舞（詫間町）
103 船越八幡神社のオトグイ神事（詫間町）
104 賀茂神社祭礼　附御神船一隻（仁尾町）
105 熊岡八幡宮一つ物神事…（豊中町）
106 宇賀神社どぶろく祭……（豊中町）

彌与苗踊保存会

▲一昨年は中国・四国ブロック民俗芸能大会に出場しました

彌与苗踊・八千歳踊・繰上踊

彌与苗踊・八千歳踊は、財田中入樋地区に伝承されている古式の雨乞い踊りです。彌与苗踊は、長久4年（1043年）春、大干ばつにより苗代の水がない時に、雨ノ宮神社で村人が音頭を作って雨乞い踊りをしたところ、にわかに雨が降り豊作を得たことに由来します。「いよいよ苗を与える」意味から「彌与苗踊」と名付けられました。その後も、干ばつの度に村人によって踊られていました。

彌与苗踊はもともと見せ物ではなく、ひたすら雨乞いを踏み舞う姿に生活の厳しさが感じ取れる踊りです。

彌与苗踊は雨乞いの踊り、八千歳踊と繰上踊は収穫のお礼の踊りになります。

▲昭和35年頃の踊り風景

記念物【史跡】

史跡

107 二ノ宮窯跡……（高瀬町）
108 天霧城跡……（三野町）
109 宗吉瓦窯跡……（三野町）

県指定史跡

110 歓喜院内の瓦窯跡……（高瀬町）
111 小鳥島貝塚……（仁尾町）
112 弥谷寺信仰遺跡……（三野町）
113 辻の札場……（仁尾町）

114 南草木遺跡……（仁尾町）
115 興隆寺跡石塔群……（豊中町）
116 紫雲出山遺跡……（詫間町）

市指定史跡

117 仁尾城跡……（仁尾町）
118 道場前の石積みの井戸……（仁尾町）

119 延命古墳……（豊中町）
120 道音寺跡……（豊中町）
121 一里塚跡……（豊中町）
122 尊澄法親王御旧跡……（詫間町）
123 馬城古墳……（詫間町）
124 宗運寺古墳……（山本町）
125 山王山古墳……（山本町）
126 あみだ地……（山本町）
127 高井城跡……（山本町）
128 郷さかい……（山本町）
129 神田城跡……（山本町）

130 千田堤……（山本町）
131 大塚古墳……（豊中町）
132 六の坪……（豊中町）
133 一つ物聖地……（豊中町）
134 妙見山遺跡……（仁尾町）

昔は夜通し踊っていました

インタビュー
彌与苗踊保存会
会長　荒川和敏さん

私は、前会長の近所だったこともあり、子どものころから参加していました。昔は、娯楽が少なかったので、何かあったときに、若者が集まって踊っていました。

そして、雨が降らない時期が続いたら、龍神様を祀ってある地元の山の頂上で、麦わらを燃やして火を焚いて、その周りで夜を通して踊って雨を願いました。

▼雨が降るまで

彌与苗踊は、入葉・彌与苗・長生・糸巻・御元・すくいの6曲を、雨が降るまで繰り返し踊り続けます。雨が降るまでと言うと気の遠くなるような話ですが、実際に一度、本当に雨が降りだしたことがあります。

▼地元以外で踊ったときに

それは、昭和6年ごろの大干ばつのとき、粟井村・豊田村から依頼があって夜通し踊り、朝方帰ってくるときに、たまたま雨が降りまして大変感謝されたという話を聞かされたのをおぼえています。

遠くは徳島県の剣山の中腹の神社にも呼ばれて踊ったことがあります。

▼子どものころから慣れ親しんで

昔は、ほとんど青年だけで踊っていましたが、青年の数が少なくなった20年前からは、子どもを入れるようにしました。子どもが入れば、にぎやかになり、活気づくので。そのころの子どもが、今、青年になってがんばってくれています。しかし、踊りが地味なので、中学生ぐらいになると、なかなか来てくれないんですけどね（笑）

▲入樋公民館で親、子、孫まで世代を超えて集まって練習しています

▲現在、メンバーは約30人。ふるさとを思う気持ちはみんな同じです

▼伝統を誇りに

今一番望むことは、子どものころになじんでもらい、ずっと後世に残していってもらうことです。先人たちが築いてきた財産を重荷に感じないで、みんなが輪になるきっかけと考えてくれればうれしいですね。

自分の地元に継承されている伝統があることに誇りを持って、未来へつなげていってほしいですね。

彌与苗踊・八千歳踊を見るには

財田町文化祭
日時　11月1日(日) 12時30分頃
場所　財田町公民館

生里ももて祭保存会

約1000年の歴史

ももての由来は、地域の安寧を祈願するとともに厄年の厄払いや五穀豊穣を願い、大変厳しいしきたりを何百年も守り続け、人から人へと受け継がれてきた由緒正しい祭りです。

生里ももて祭は、安永年間から現在まで約1000年の歴史があり、詫間町生里の三寶荒神宮で旧暦の2月1日（現在はこの日に一番近い日曜日）に執り行われています。頭屋・潮垢離の儀式・紋付羽織袴などほぼ昔のまま受け継がれ、祭りの内容すべてが厳しい取り決めで守られているのも生里ももて祭の特徴です。

▲毎年、大勢の見物客が訪れます

厳しいしきたりを守り続けています

インタビュー
生里ももて祭保存会
代表　大江壽昭さん

▼取り決めに従っての祭りの準備

祭りの1カ月ほど前に自治会長が頭屋を指名します。その頭屋が本神宮へ進み、神の前でくじを引いて本頭（頭屋の代表者）を決定します。

また、前頭（昨年の頭屋）と来頭（来年の頭屋）は生里に住所がある若者から5人ずつ射手を確保していきます。

本頭は祭りの記録帳に書き記してある厳しい取り決めに従ってすべての準備を始めます。1カ月も前から潮垢離の儀式（裸で海に入り体を清める行）を毎晩行います。祭の前日には、射手もこの潮垢離の儀式を行います。

的づくりも古式のままに行っています。昔から指定されている場所で的に使う竹を取ってきて編み、障子紙と半紙を貼ります。わらで筆を作り、なすびの茎を焼いた墨で的を書きます。

▼『けんかももて』

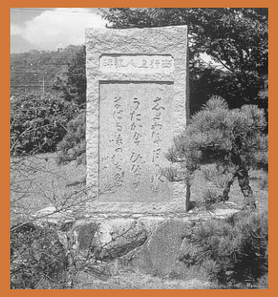
射手が、厄払いや五穀豊穣・大漁祈願・家内安全などの願いが書かれた『扇の的』を次々に射っていきます。見事に矢が当たると境内の見物客から大歓声。矢を外すとヤジの嵐です。ただ、ヤジが飛んで賑やかなほど、その年の漁がいいとされるので、みんなでヤジを飛ばします（笑）

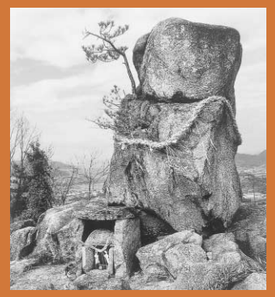
みんなで酒を酌み交わし、お花（お金）がたくさん出るので、昔から言い合いになることが多く、けんかにもなっていました。「神社の中ではけんかもいい。ただし神社を出たら恨みを残さず忘れる」という取り決めがあるぐらいで、別名『けんかももて』と言われます。

最近はけんかもなくなりましたが、厳粛な中でも賑やかな祭りとして、後世に受け継いでいきます。

▲体をぐっとかがめ的をねらう小笠原古流という独特の方法で矢を放ちます

135 岡本城跡……（豊中町）
136 西行法師来遊の地……（三野町）
137 手石場の窯跡……（三野町）
138 貴峰山城跡……（三野町）
139 真鍋弥太夫の墓……（仁尾町）
140 石舟一号・二号墳……（高瀬町）
141 矢ノ岡古墳……（高瀬町）
142 麻城跡……（高瀬町）
143 天霧城主香川氏代々の墓（三野町）
144 汐木港跡……（三野町）
145 吉吾古墳……（詫間町）
146 本篠城跡……（財田町）
147 山辺古墳跡地……（山本町）
148 銅矛出土地……（山本町）
149 岩神さん……（山本町）
150 金蔵古墳……（三野町）
151 宮山窯跡……（豊中町）
152 鬼ヶ臼伝承遺跡群……（高瀬町）





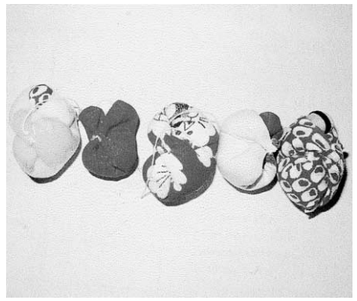
大浜ももて祭保存会

厄を去る『さるとりももて』

荘内のももて祭は、八ツ浦（家の浦、名部戸浦、大浜浦、生里浦、箱浦、積浦、粟島浦、香田浦）の各浦々で道人組合を作り、各浦ごとにこれを伝承し、各浦ごとにそれぞれ特徴があります。

大浜ももて祭は『さるとりももて』や『砂くいももて』と呼ばれ、船越八幡神社の神事の一つとして724年（神亀元年）に始まったと伝えられています。

『さるとりももて』の由来は、射手がおさるのぬいぐるみを投げることからこの名称で呼ばれています。これは、魔よけのさる、長寿のさるといわれ「厄を去る」ことから、射手の投げたおさるを見物人は競って拾い、お守りとして大切に持ち帰ります。



▲おさるのぬいぐるみは厄を去る

伝統文化を子どもたちに

インタビュー
大浜ももて祭保存会
代表　江頭昌道さん

▼一度途絶えたももて祭

ももての行事については、船越八幡神社の絵馬堂に記録したものがあり、それを解読し、とりまとめたものに従って、現在、執り行っています。それというのも、大浜のももては昭和初期に一度途絶えているんです。しかし、昭和52年に県の無形民俗文化財に指定されてから、地元で復活しようとの気運が高まり、多くの皆さんのご協力により昭和55年に復活させることができました。

▼『さるとりももて』も伝承

射手がおさるのぬいぐるみを投げることから付いた『さるとりももて』。このおさるのぬいぐるみは地元の人々が全員で手作りしています。

私が子どものころは「ちゃんちゃんこ」の背中にお守りとして縫い付けてくれていました。

▼射手は作法も歌も練習

射手は大浜に住んでいる人の中から、厄年の人や新成人を優先して12人決めます。射手の練習は、弓の使い方（小笠原古流）に始まり、歌の練習も行います。歌は頌賀節（ションガエー）と呼ばれる歌で、これを射手が歌います。最初は恥ずかしがっているんですが、祭りまでには、見物人を楽しませるまでになります（笑）

▼伝統文化を引き継いでいくために

平成15年に文化庁の事業で小学生を対象に『大浜子どももも教室』を行いました。それは3年で終わったのですが、引き続き大浜ももて祭の中で『子どももも祭』として行っています。小さい頃からももてに馴染んでもらい、受け継いでいってもらいたいですからね。

▲次の世代に引き継いでいくために子どももも祭を開催

153 吉田古墳群……（財田町）
154 橘城跡……（財田町）

記念物【名勝】

市指定名勝

155 不動ヶ滝……（豊中町）
156 妙見宮……（仁尾町）
157 八紘山……（仁尾町）
158 磯菜天神……（仁尾町）
159 鮎返りの滝……（財田町）

記念物【天然記念物】

天然記念物

160 世の中桜……（財田町）
161 菅生神社社叢……（山本町）

県指定天然記念物

162 志々島の大くす……（詫間町）

市指定天然記念物

163 履脱八幡神社の松林……（仁尾町）
164 吉祥院の万寿ハク……（仁尾町）
165 常徳寺の雌雄ソテツ……（仁尾町）
166 賀茂神社羽衣の松……（仁尾町）
167 アッケシソウ……（詫間町）
168 平石……（山本町）
169 威徳院の無量寿ハク……（高瀬町）

粟島ももて祭保存会

農漁閑期に弓道を練習

粟島ももて祭は、粟島神社の祈年祭として始まったものと伝えられています。

祈年祭は、その年の豊作豊漁を祈願する神事です。各氏子の家内安全・無病息災など、特に粟島では船乗りが多いので、海上安全を祈念しています。また、男42歳、女33歳の厄払いも兼ねています。

島民は、農漁閑期に弓道を習い、祭りの日に大衆の前で演技することを楽しみにしています。

▲的までの距離は28m。練習しないと当たりません

島をあげて続けたい

インタビュー
粟島ももて祭保存会
中西 敏文さん・山北 友好さん・田尾 啓司さん（左より）

▼子どもがいなくなって

粟島のももて祭も、昔は頭屋制があり村の中で順番に行っていました。射手は本頭屋から6人、副頭屋から6人、頭人（神事のお手伝いをする人）という子どもも1人選ばれていました。そして頭屋も射手も1週間ほど行（ぎょう）に入って、熱い風呂に入ったり、海で身体を清めたり（潮垢離（しおごおり））していました。

しかし、子どもがいなくなり、子どもが務めていた頭人ができなくなったときに、頭屋制度も一緒になくなりました。現在は、神社の社務所で1日行事で行うようになりました。

▼射手の最高齢は88歳

粟島ももて祭は、約200軒の島民みんなで守っている大切な行事です。

今、射手の最高齢は88歳。一番若くても還暦前後で、全体的に高齢化しています。しかし、みんな祭りのためにがんばって練習しています。練習しないと的に当たらない（笑）なんせ、粟島のももては、的までの距離が遠い。昔は12間＝21.6mでしたが、今は28mもあり、的の直径は36cm。本番は扇子で行うので、練習していないと当たりません。

▼残っている人で続けていくしかない

弓を引く練習が必要なので、昨日今日帰ってきてできる祭りではありません。やはり島に残っている人で続けていくしかないと思っています。できる限りがんばっていきますよ（笑）

▲日々の練習の成果をお披露目する場でもあります

登録有形文化財

登録有形文化財

170 子持庵のイチョウ……（高瀬町）
171 財田駅前タブノキ……（財田町）
172 下高瀬簡易郵便局（旧丸岡呉服店）……（三野町）
173 粟島海洋記念館本館（旧粟島海員学校本館）…（詫間町）
174 粟島海洋記念館資料館（旧粟島海員学校教室）…（詫間町）
175 粟島海洋記念館研修棟（旧粟島海員学校教室）…（詫間町）
176 粟島海洋記念館武道場（旧粟島海員学校柔道場）（詫間町）
177 粟島海洋記念館門柱（旧粟島海員学校門柱）…（詫間町）

以上、三豊市の171点の指定文化財と6点の登録有形文化財。

文化財は、人類の文化的活動によって生み出されたみんなの財産です。

それを守り続ける人だけでなく、みんなでこの郷土みとよの財産を大切にしていきましょう。

来月号から、三豊市の文化財を紹介するコーナー『文化財を訪ねて』が始まります。

文化財の理解と活用にむけて

宗吉かわらの里展示館
館 長（主席文化財専門員）
渡部　明夫さん

先月から2回にわたって紹介した文化財は「無形民俗文化財」と呼ばれています。無形民俗文化財はそれぞれの地域の歴史的事件や神事、生活文化などから生まれ、史跡や有形文化財などと共に、それ自体が地域の歴史、文化を形づくります。現代から見ると、三豊市の文化財は、三豊の歴史・文化を物語る証人の役割を担っているのです。

三豊市の自然が三豊市以外に存在しないように、歴史や文化も三豊市以外に全く同じものはありません。つまり、自分たちのまちを詳しく知ろうとすれば、歴史・文化などをまず知らなければなりません。しかし、文化財は自らしゃべることができないため、その特徴や重要性を調査によって明らかにした上で、市民の皆さんに詳しく知っていただかなくてはなりません。

三豊市は、平成18年に誕生した新しい市です。ですから、全国的に知名度が高いとはいえないし、今後、まちづくりをさらに進めていく必要もあるでしょう。

そうした中、市民の皆さんが、三豊市の歴史的・文化的環境に関心を持ち、その特色や個性を正しく理解すれば、地元に対する愛着がさらに大きくなり、文化財を生かした特色あるまちづくりもできるのではないでしょうか。

まずは、訪問客に対して、市民が三豊市の歴史・文化を紹介することから始めてみませんか。市民の力で三豊市を全国・海外に発信していきましょう。